

北広島遺産 ハンドブック



歴史遺産

歴史遺産編 目次

1	北広島の歴史	……	3
2	東部・団地・南の里エリア		
	2-1 東部・団地・南の里エリアの歴史	……	9
	2-2 東部・団地・南の里エリアの歴史遺産	……	14
	歴史遺産マップ 東部・団地・南の里エリア編	……	25
3	大曲・西部エリア		
	3-1 大曲エリアの歴史	……	26
	3-2 大曲エリアの歴史遺産	……	27
	3-3 西部エリアの歴史	……	32
	3-4 西部エリアの歴史遺産	……	35
	歴史遺産マップ 大曲・西部エリア編	……	42
4	西の里・北の里エリア		
	4-1 西の里エリアの歴史	……	43
	4-2 西の里エリアの歴史遺産	……	45
	4-3 北の里エリアの歴史	……	49
	4-4 北の里エリアの歴史遺産	……	50
	歴史遺産マップ 西の里・北の里エリア編	……	53

■北広島遺産ハンドブック：歴史遺産編の地域区分について

このハンドブックでは、第2章で東部・団地・南の里、第3章で大曲・西部、第4章で西の里・北の里を各エリアとして扱っています。これらの地域区分は、平成26年9月及び10月に開催した地域遺産発見バスツアーの(市内を3地域に分け、各回1地域を巡回した)区分にならったものです。

北広島市エコミュージアムセンター 知新の駅

北広島遺産ハンドブック

■エコミュージアム、それは屋根のない博物館

エコミュージアムでは、地域全体を「屋根のない博物館」に見てます。1960年代のフランスでエコミュージアムは誕生しました。建物の中にある博物館と違い、人々の生活と地域の文化、その自然や歴史を地域の「遺産」として現地において保存、育成、展示する野外博物館のことをいいます。そのことにより、一人一人がまちの魅力を発見し、地域社会全体が発展していくことを目的としています。



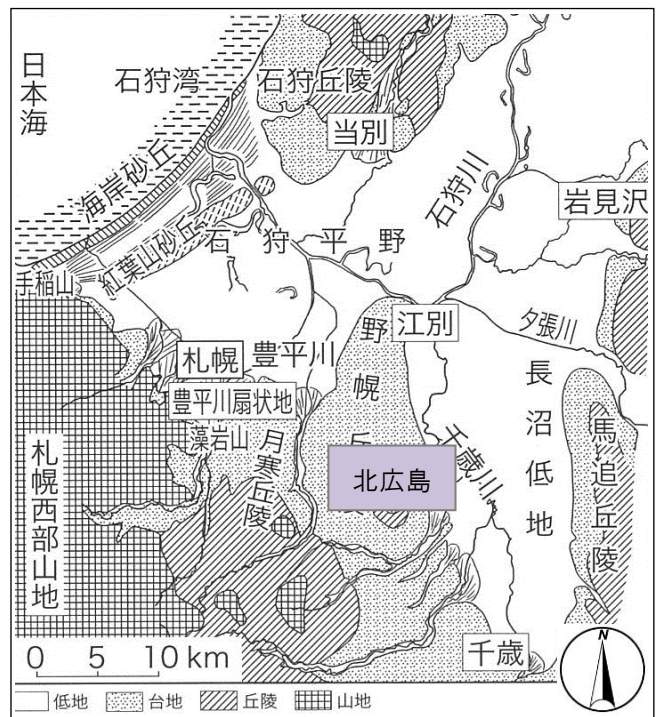
■北広島の遺産ハンドブック

北広島市には数多くの遺産があります。北広島エコミュージアムで扱う遺産とは、遠い過去から遺されてきたものだけでなく、現在から未来へ遺していくべきものも意味します。エコミュージアムは、これらの遺産を発掘していくことから全てが始まります。このハンドブックでは、北広島にある遺産を、大きく「自然遺産」「歴史遺産」「産業遺産」3つのタイプに分類し、地図に各遺産の位置を示します。このハンドブックを手にとって遺産めぐりをしてもらえるように作りました。

■はじめに

北広島市は、石狩平野の南部に位置する周囲52.5km、総面積119.05km²の都市です。市の北東部には北海道最大の石狩川水系が流れる石狩平野(石狩低地帯)が広がり、半島状に突き出た野幌丘陵、南西側は島松山(492.8m)を頂点とする山地があり様々な地形がみられる場所です。また、住宅地が森林や公園に点在しており、そこには様々な生き物が生育しています。北広島は、札幌という大都市に隣接しながらも、多様な生き物を育む森林や緑が身近に存在する自然豊かな街です。

図出典：宮坂省吾ほか(2011)『札幌の自然を歩く(第3版 道央地域の地質あんない)』北海道大学出版会 p269, 岡孝雄・田中実「札幌周辺の地史」より一部加工



1 北広島の歴史

■北広島の考古

約1万年前に最終氷期が終わり気候が温かくなると、人間の生活は移動型の狩猟生活から定住型の狩猟・漁労・採取生活へと変化します。「縄文時代」の始まりです。北広島には平成26年4月現在59か所の埋蔵文化財包蔵地が確認されています。北広島で発見された遺跡の年代は、縄文時代早期から続縄文時代までで、約1300年前から始まる擦文時代の遺跡は未確認です。中近世のアイヌ文化期の遺跡は、チャシ（砦、館、柵、柵囲など）が2か所で確認されています。

時代区分	本州	北海道	北海道と北広島市の歴史年表
2~30000年前		旧石器時代	北海道に人が住みはじめる。 細石刃文化がひろがる。
12000年前	縄文時代	縄文時代 (草創期)	土器が使われはじめる。
8000年前		(早期)	市内を流れる輪厚川や音江別川流域などの段丘上に人々が住みはじめる。 竪穴住居に住み、貝殻などで模様をつけた土器がつけられる。 (共栄1遺跡、美沢1丁目遺跡、富ヶ岡遺跡など)
7000年前		(前期)	気候が温暖になり、海水面が上昇、各地に貝塚が残される。 繊維を含む土器がつけられる。(北の里3遺跡)
5000年前		(中期)	ヒスイ交流*など、本州との交流が盛んになる。 市内各地域(東部、西の里、大曲、島松など)に遺跡が残されている。
4000年前		(後期)	道内各地にストーンサークル*や周堤墓*などがつけられる。 市内の遺跡は低地帯にも広がりをみせる。
3000年前		(晩期)	東日本に亀ヶ岡文化*が栄え、道内にも影響を与える。 土器のかたちが用途によっていろいろに変化する。
2300年前	弥生 古墳	続縄文時代	本州以南の弥生文化とは異なり、海と川、漁労の文化が発展する。 (南の里2遺跡) 琥珀のネックレスが流行する。 金属器が伝わる。
1400年前	飛鳥(592~)	オホーツク文化期	サハリンからオホーツク文化の人々が渡来する。
1300年前		擦文時代	擦文土器がつけられる。 市内では未だ遺跡が確認されていない。 北海道式古墳がつけられる(江別市、恵庭市で発見)。 土器が使われなくなる。
800年前	鎌倉(1192~)	アイヌ文化期 (近世)	交易による鉄鍋などの金属製品が使われる。 松前藩が成立する(慶長9、1604年)。 市内中の沢、島松にチャシが築かれる(中の沢チャシ跡、島松川左岸チャシ跡)。 和人の地理探検記録などにアイヌ語地名としてシママップ、ワッチ、オテネベツなどの名が現れる。
400年前	江戸(1603~)	(近代・現代)	島松駅通所が設置される、中山久蔵が寒地稲作に成功する(明治6年)。 和田郁次郎ら広島県人による開墾(明治17年)、広島村の開村(明治27年)。
300年前			
200年前			
100年前	明治		

★色文字は、北広島の出来事です。

【解説】

※1 ヒスイ交流：

北海道と東北との間でヒスイや黒曜石などの鉱物資源の交易がありました。ヒスイは新潟県糸魚川産のものであることがわかっています。

※2 ストーンサークル（環状列石）：

石を環状に配置した古代の遺跡です。主に青森県と秋田県北部、北海道では渡島半島を中心に道北を除く道内各地で発見されています。日本ではじめて公表されたのは明治19年小樽市の忍路環状列石です。

※3 周堤墓：

縄文時代後期後半に造られた大規模な集団墓です。地面に円形の竖穴を掘り、掘り上げた土を周囲に環状に積み上げることで大規模なドーナツ状の周堤が造られます。その区画の中に複数の墓をつくる形式を周堤墓といいます（千歳市 キウス周堤墓群など）。

※4 亀ヶ岡文化：

亀ヶ岡遺跡は、青森県西部、津軽半島岩木川左岸にある集落遺跡。完形品を含む多数の造形的に優れた土器、土偶、植物製品、ヒスイ製の玉類などが出土しています。

■独自の発展をとげる北海道の文化

北海道は、本州との間に津軽海峡を挟み、気候も寒冷であるため、本州とはちがう独自の文化を育みました。本州でいう弥生時代、古墳時代の頃は、北海道では続縄文時代やオホーツク文化期でした。稲作は行われず、採取や漁労の文化が続きます。

その後本州では、激動の戦乱の世が続きますが、北海道では擦文（さつもん）時代やアイヌ文化期が永く栄えました。擦文時代は7世紀初め頃から始まります。続縄文時代には土器に縄目の模様が付けられましたが、擦文時代では表面に幅1cm程の刷毛目（はけめ）が付けられました。これは土器の表面を整えるため、へらで擦って（こすって）つけたものと考えられており、名前の由来となっています。



④擦文文化の主な遺跡分布図

桑原真人・川上淳

『増補版 北海道の歴史がわかる本』

■石狩低地帯は「文化のクロスロード(交差点)」

北海道が歴史資料に始めて表れるのはいつでしょうか。『日本書紀(720年)』に「渡嶋蝦夷・夷(エミシ)」と呼ばれる人々が記されており、彼らの中心的居住圏は石狩低地帯だったと考えられています。その頃には積極的に本州との交易を行っており、石狩低地帯の続縄文人が積極的に東北地方へ南下していったことも遺跡から確認されています。



①国指定史跡名勝天然記念物「江別古墳群」

南北の文化の交差点となった石狩低地帯には、東北部の文化に接触することによって土器製法や鉄器加工法、古墳築造が導入されることになり、北広島近隣でも続縄文文化から擦文文化への移行期である多くの遺跡や遺物が発見されています。

擦文時代の終末期からアイヌ文化期への移行期にかけての遺跡は、道内でわずかしこ発見されていません(羅臼町,オタフク岩洞窟)。アイヌ文化の重要な要素である「クマ送り」をたどると、オホーツク文化と擦文文化の接触によりアイヌ文化へと発展したのではないかと考えられます。

11、12世紀頃から、「蝦夷」の読み方がエミシからエゾと変化します。源頼朝が征夷大將軍につくと、安東氏が朝廷に代わり支配する「蝦夷管領(えぞかんれい)」となりました。鎌倉時代から近世頃まで、北海道は蝦夷島(えぞがしま)、蝦夷が千島(えぞがちしま)と呼ばれ、そこに暮らすアイヌの人々を「渡党(わたりとう)」、「日の本(ひのもと)」、「唐子(からこ)」と分けて考えられていました。

「渡党」は多くの歴史資料に記述が残っており、現在の函館や松前に暮らし津軽海峡を自由に往来し交易を行っていました。「日の本」は千島列島やカムチャッカとの交易、「唐子」は北海道の日本海側に住むアイヌとみられ、「唐太(樺太)」につながる言葉からもわかるように、中国大陸との交易を意識して呼んでいました。



②中世における蝦夷島概念図

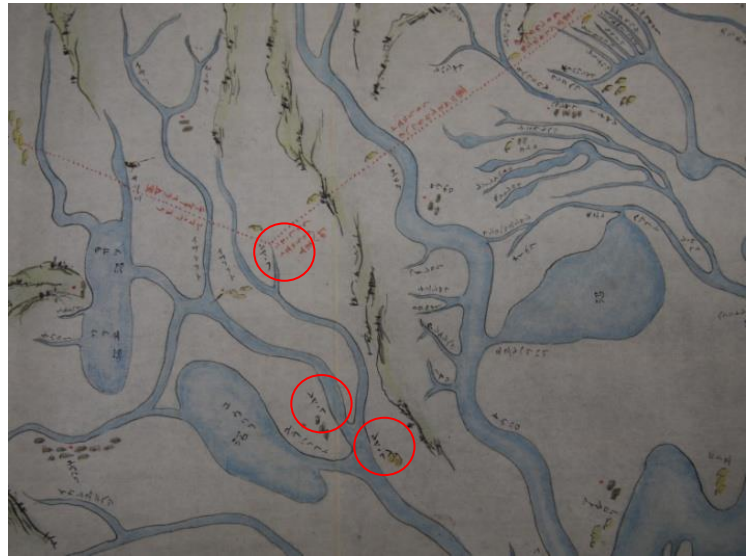
桑原真人・川上淳

『増補版 北海道の歴史がわかる本』

■アイヌの人々の自然観と北海道の地名

17世紀に入って、蝦夷島に誕生した松前藩はアイヌとの交易によって藩を保ち、「蝦夷地」を幕藩制国家に組み込んでいきます。また、18世紀末頃から蝦夷地へ近づくロシアの動きが幕府の政策を大きく変えていきます。これによりアイヌ社会も大きな影響を受け、後に和人との衝突がおきます。

伊能忠敬の『大日本沿海輿地全図(1816)』、松浦武四郎の蝦夷地渡航記録をはじめ、江戸時代の探検家や測量隊が記した蝦夷地の地図には多くのアイヌ語地名が記されています。



㊤「西蝦夷地石狩場所絵図」(幕末期作成)
北海道大学北方資料室所蔵
(赤丸箇所)シママフと3箇所記されている。
現在の旧島松駅通所あたりと千歳川合流地点あたり
と考えられる。

アイヌの人々は、川や谷、岬や崖などに沢山の言葉を使っていました。その多くが現在の北海道の地名や河川名の由来になっています。アイヌの人々は、季節によって狩猟や採集のためのチセ[家]を持ち、海岸で漁労する居住点と内陸で狩猟や冬越しをする居住点との二重生活をすることもありました。その居住点との交通は主に川を利用していたので、アイヌの人々にとって川やそれをとりまく地形などの自然環境への理解は生命に直結することであり、そこに目印のように名前をつけたのかもかもしれません。

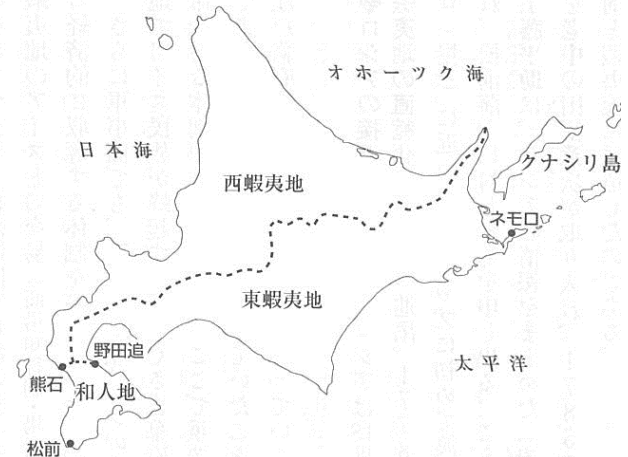
川は、アイヌ語で「ベツ・ペツ」「ナイ」と二種類あります。「ベツ」は水かさが増すとすぐに氾濫してしまう危険な川、「ナイ」は岸がしっかりしていて、洪水に強い川を表しています。「ベツ」がつく川は、洪水の歴史や危険がある川かもしれません。北広島市内にも輪厚川、島松川、音江別川などアイヌ語が由来となっている川があります。

■たび重なる制度の改変、北海道開拓の歴史

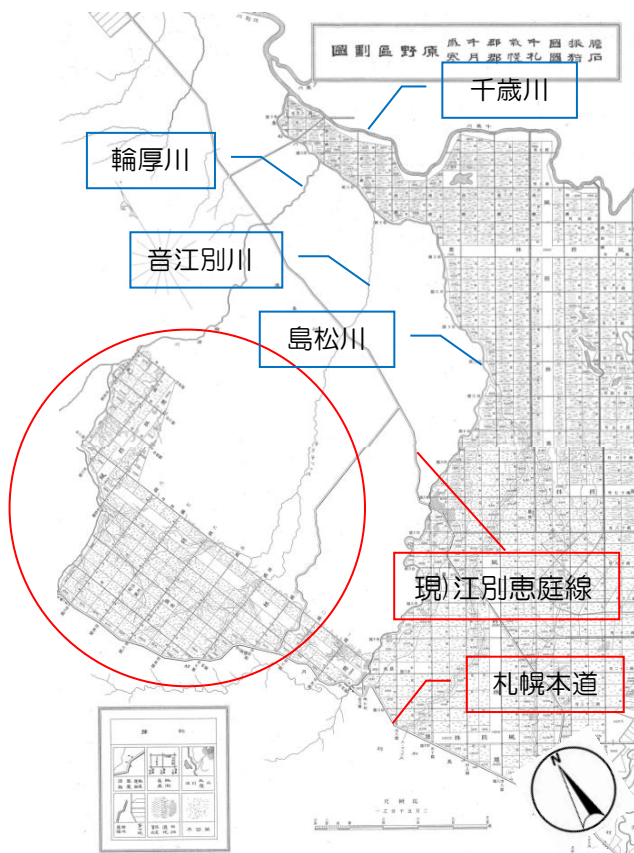
享保4年(1719)、幕府により松前藩主が蝦夷島の大名として正式に認められます。松前藩は「和人地」と「蝦夷地」で区別し、蝦夷地への和人の定住は禁止しました(運上屋は特例)。

その後、南下するロシアへの対抗策として、蝦夷地を東蝦夷地(1799)、西蝦夷地(1807)とに区別して、江戸幕府が直接治める「幕府直轄地」となります(これにより松前藩は国替へ)。この時、島松川は東蝦夷地と西蝦夷地の境界の一部でした。

さらに幕末期(1855~)には、幕府は蝦夷地を東北六藩へ分け与え、開発と守衛を命じました(北広島は庄内藩の領地となりました)。



①東蝦夷地と西蝦夷地(1800年当時)
桑原真人・川上淳著
『増補版 北海道の歴史がわかる本』



明治2年(1869)、明治政府は蝦夷地を「北海道」と改名します。同年、開拓使が設置され、北海道に中央政府からの巨額の資金が投入されます。その後明治15年(1882)に開拓使が廃止され函館・札幌・根室の3県が設置されます。しかし、行政上の運営の非効率により、明治19年に3県体制は廃止され、北海道庁が誕生します。

主な開拓政策としては、道路や鉄道、港湾、駅通といった交通運輸手段の整備の他に、植民地の選定と調査・区割りの実施がありました。調査は、明治19年から10か年をかけ、大原野およそ34億坪の調査を完了し、その結果は『北海道殖民地選定報文』、『殖民地区画図』として公刊されました。

②「石狩国札幌郡月寒原野区割図(明治38年発行)」
北海道立図書館北方資料室所蔵
(赤丸箇所)札幌本道から東側に植民地計画があったことが記されている。現在の西部地区のあたり。

また、国有未開地の処分として、それまでの「北海道土地売貸規則（明治5年）」に代わり「北海道土地払下規則（明治19年）」が制定され、開拓者は道庁に事業計画書を提出し審査が通ると10万坪を限度に土地が無料貸付されました。開墾成功後は、1000坪1円(当時の物価指数から換算して現在の2000円程)で購入できました。

参考文献

長沼孝ほか(2011)『新版 北海道の歴史 上』北海道新聞社

田端宏ほか(2000)『北海道の歴史』山川出版社

桑原真人,川上淳(2008)『北海道の歴史がわかる本』亜璃西社

— MEMO —